

SuMPO環境ラベルプログラム 意見公募結果報告書

報告日		2026年4月20日		
意見公募実施期間		2026年2月16日 ~ 2026年3月16日		
PCR原案受付番号		PDE-237		
製品の属する分類		建設用木材・木質材料 v.2.0.0		
意見番号	NO.	該当項目	御意見の内容および理由	御意見に対する対応結果
1	3.2	用語の定義	本PCRでは、副資材には梱包材も含む定義にしています。一方、Core-PCRでは、4.3 製品構成要素の通り、包装資材、輸送資材、副資材は別の定義です。本PCRの4.3 製品構成要素では、Core-PCRに従うとなっていますので、定義を合わせた方が良くないでしょうか？	⑰副資材より梱包材を削除し、下記を追加しました。 ⑱包装資材 輸送時に製品を保護する、荷崩れを防ぐための資材。 例) 段ボールシート、シュリンクフィルム、結束バンドなど
2	4.4.2	対象ライフサイクル段階	EN15804+A2準拠の場合、B1-B7は任意になっていますが、4.4.4 対象プロセスや4.4.5.3 データ収集項目では算定対象外となっており、矛盾しています。	4.4.4.3 使用段階 (B1~B7) および4.4.5.3 【B1】 ~ 【B7】 使用段階に「ただし、EN15804+A2に準拠する場合、使用段階は任意算定対象とする。」を追記しました。
3	4.4.5	データ収集項目	Core-PCRの「ライフサイクルの全段階(Cradle to Grave)を対象とするEPDの場合、廃棄物焼却など一部の downstream 工程においても二次データを用いることができる」の文書が残っていますが、PCR4.4.1より、「Cradle to Grave」は対象外としますので、こちらの文章は不要ではないでしょうか？	EN15804+A2に準拠する場合には全段階を算定対象とすることがありますので、ご指摘の文面について「ライフサイクルの全段階(Cradle to Grave)を対象とする ⇒ EN15804+A2に準拠してライフサイクルの全段階)を対象とする」に修正しました。
4	4.7,2	ライフサイクル全体に共通する個別ルール	CFPではなくEPDなので、「GHG排出量を求める場合」ではないと思います。	「GHG排出量」⇒「環境負荷」に修正しました。
5	4.7.2	ライフサイクル全体に共通する個別ルール	木材・木質材料中の炭素貯蔵量に関する規定を見ますと、Annex.Fに基づく事とあります。現在のAIST-IDEAでは、原単位自体に生物由来炭素含有量の情報を持っていますが、Annex.Fによる算定は必須なのでしょうか？	MiLCA for EPDによる算定では原単位自体に生物由来炭素含有量の情報がないので、Annex.Fは継続して掲載しています。

6	4.7.3.5	炭酸化	本PCRでは使用段階は算定対象外としますし、本製品では炭酸化は関係しないようにも思うのですが、必要なのでしょうか？	現時点では木質材料については炭酸化は無関係であると考えられますが、将来的にセメント材料と木材とを複合化した木質材料が製品化される可能性を見越して炭酸化の条項を設定しておきます。
7	Annex. B	輸送シナリオ	B.1<国内輸送の場合>（ウ）において、県間輸送距離の「500km」は、過小評価にならないでしょうか？木材の場合、もっと長い距離となるケースもあるように思います。（一次データ収集のインセンティブが得られるよう、ありうる長めの輸送距離となっていますでしょうか？）	本PCRの更新では、木質チップ調達フローの追加および二次データ(既存のIDEA原単位)を使用可とすることが対象となっております。輸送シナリオの適正性についてはPCR-WGにおいて協議しておらず、シナリオ数値の更新は対象外である旨、ご承知おきください。
8	Annex. B	輸送シナリオ	B.1<国外輸送の場合>（エ）において、「カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム 国・地域間距離データベース」がありますが、こちらは現在も使用できるのでしょうか？（時間のデータ品質を満たしていないようにも思います）	事前レビューでも同様の指摘があり、「カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム 国・地域間距離データベース」は存在しないので削除しました。
9	Annex. B	輸送シナリオ	上記した用語の定義次第ですが、B.2において、生産段階に副資材調達が入っています。現状の本PCRにおいては、原材料調達段階となっていると思います。一方で、Core-PCRと整合を取るならば、生産段階になると思います。	輸送シナリオのB2. 輸送手段および積載率の表では、副資材調達輸送については、ライフサイクル段階を製造段階：A3製造としCore-PCRとの整合を図っています。
10	Annex. B	輸送シナリオ	B.2において、サイト間輸送のみ積載率が62%となっている理由は何でしょうか？もし、他と同様に「平均」を意味している場合、現在のAIST-IDEAにおける10トントラックの平均積載率は62%ではありませんので、算定をする事ができなくなります。	積載率について「defaultおよび62%」は「平均」に修正しました。
11	Annex. B	輸送シナリオ	B.2において、廃棄物輸送も10トントラックとなっていますが、実態としてそのサイズなののでしょうか？（過小評価にならないのでしょうか？）	本PCRの更新では、木質チップ調達フローの追加および二次データ(既存のIDEA原単位)を使用可とすることが対象となっております。輸送シナリオにおけるトラック車格の適正性についてはPCR-WGにおいて協議しておらず、トラック車格の更新は対象外である旨、ご承知おきください。